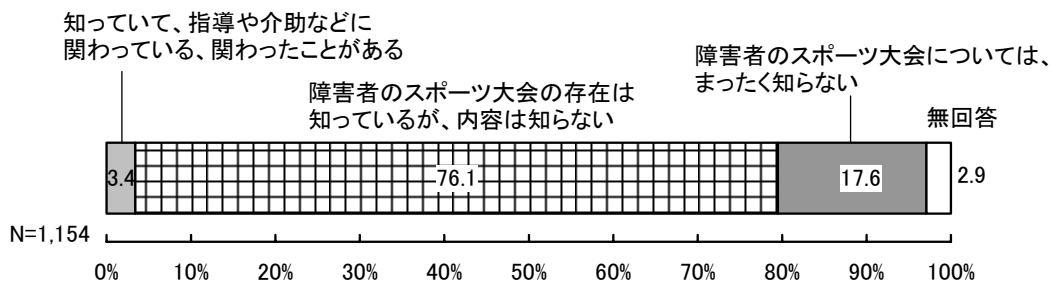


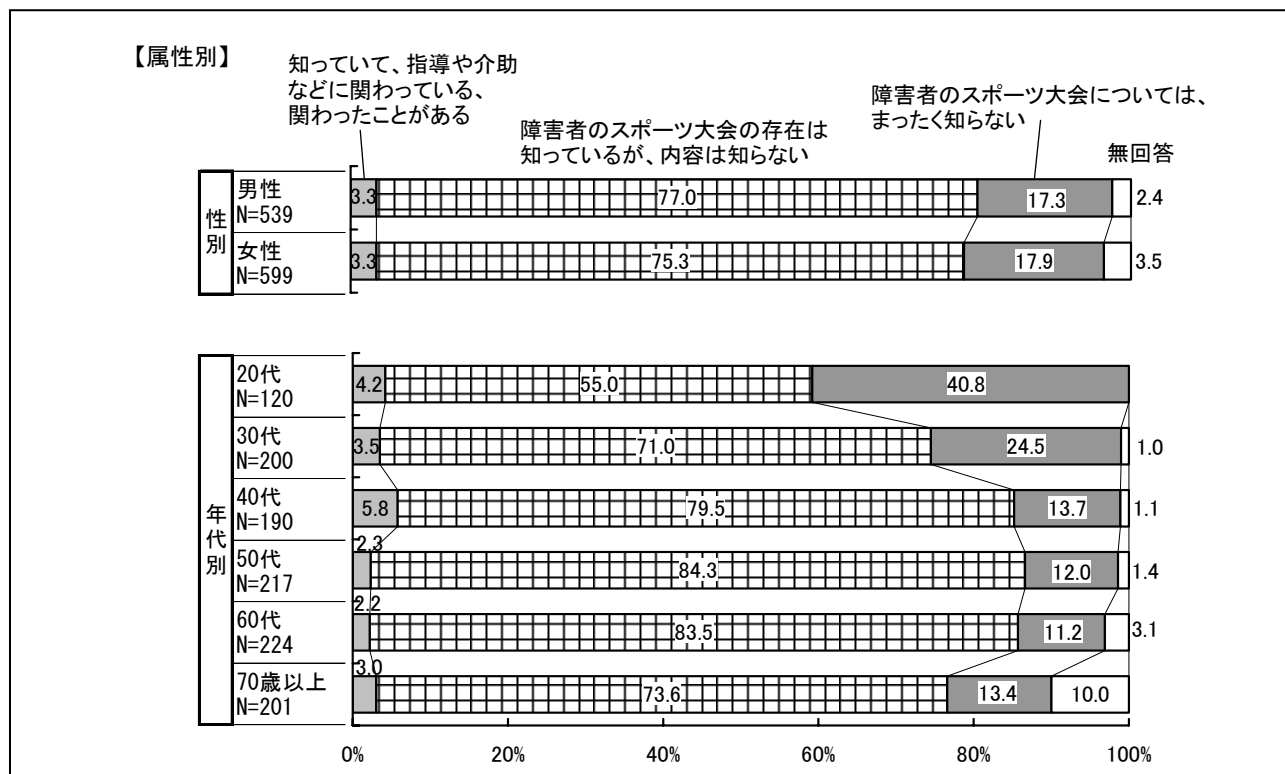
◆障害者の社会参加活動に関する認知度について

問 20 あなたは障害者のスポーツ大会（障害者スポーツ大会、野球大会等）についてご存知ですか。
（1つに○）



障害者のスポーツ大会は、存在は知られているが、7割を超える人が内容までは知らない。「まったく知らない」は、年代が低いほど多い傾向。

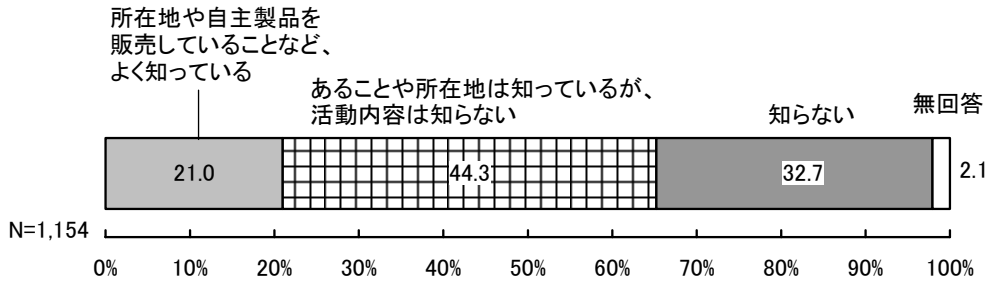
障害者のスポーツ大会の周知状況は、「障害者のスポーツ大会の存在は知っているが、内容は知らない」が76.1%と大半を占めている。「知っている、指導や介助などに関わっている、関わったことがある」は3.4%である。



性別にみると、大きな差はみられないが、わずかに「障害者のスポーツ大会については、まったく知らない」で、女性が男性より高くなっている。差は0.6ポイントである。

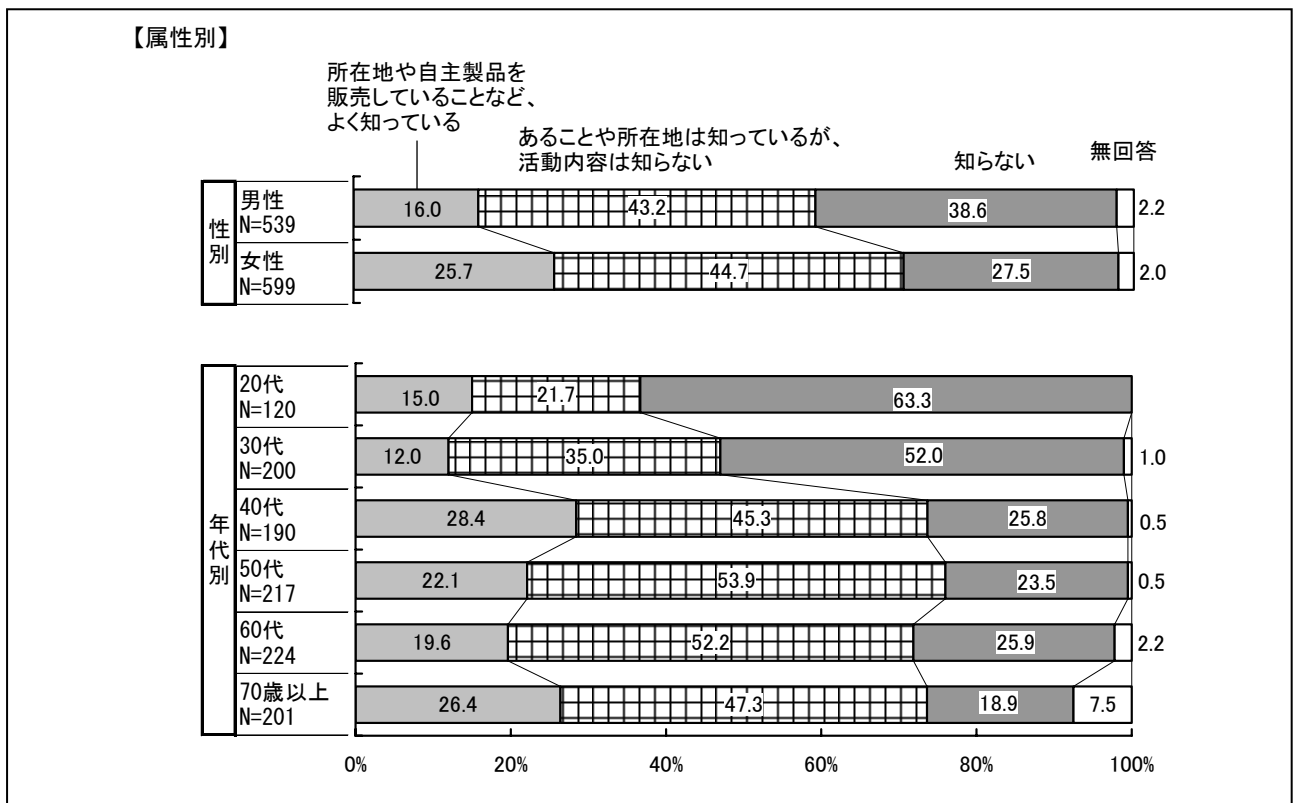
年代別にみると、「障害者のスポーツ大会については、まったく知らない」は、年代が低いほど高い割合で、20代では4割を占めている。「知っている、指導や介助などに関わっている、関わったことがある」割合は年代による差はほとんどみられない。

問 21 市内に、障害者のための授産施設*「みどり作業所」があることをご存知ですか。(1つに○)



「みどり作業所」の周知状況は、よく知っている人が2割。
女性の方がよく知っている割合が高い。若年代は「知らない」が過半数。

「みどり作業所」の存在の周知状況は、「あることや所在地は知っているが、活動内容は知らない」が44.3%で、最も高い割合を占めている。

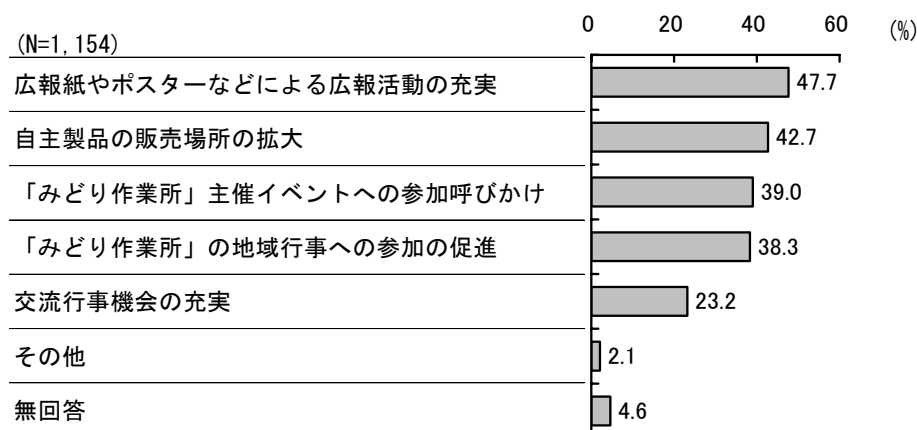


性別にみると、周知度は女性が高く、「所在地や自主製品を販売していることなど、よく知っている」は男性を9.7ポイント上回り、25.7%となっている。

年代別にみると、「知らない」割合が、若年代で高く、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。20代では6割、30代でも過半数が「知らない」と回答している。

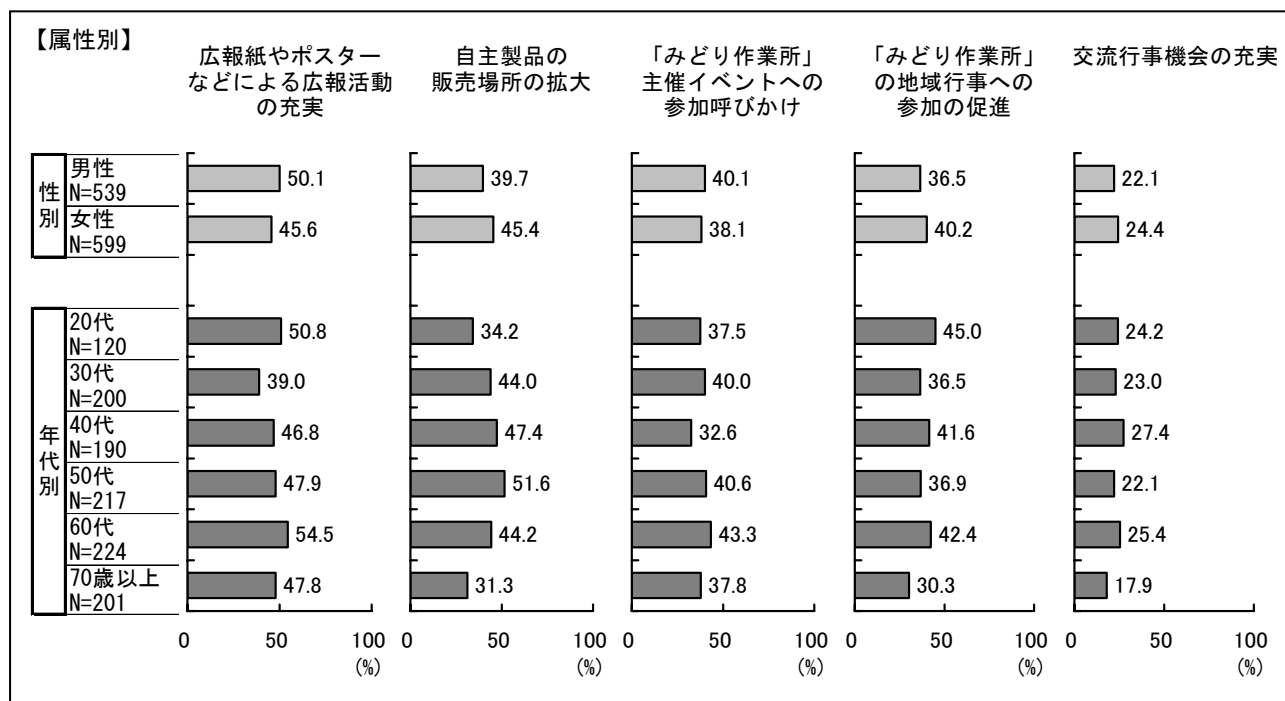
* 授産施設：心身上の理由や世帯の事情により就業の困難な者に、就労や技能修得のための機会を提供し、自立を助長することを目的とする施設。

問22 「みどり作業所」を市民に広く知ってもらうためには、どのような活動や施策が効果的だと思いますか。(いくつでも○)



「みどり作業所」の広範囲にわたる周知は「広報紙やポスターなどによる広報活動の充実」が最も多い。

「みどり作業所」の周知を図るために効果的と考えられる事項は、「広報紙やポスターなどによる広報活動の充実」が47.7%で最も多く、次いで「自主製品の販売場所の拡大」が42.7%となっており、以下、3割台が2項目、2割台が1項目と、すべての項目が2割以上の回答で、幅広い周知が求められているといえる。



性別にみると、広報や呼びかけといった意識的な働きかけでは、男性が女性を上回り、参加や交流機会の充実など、活動については、女性が男性を上回っている。

年代別にみると、40～60代までの中高年代で、4割を超える回答が3項目以上みられ、関心が高い。特に60代が、5項目中4項目で4割の回答となっている。